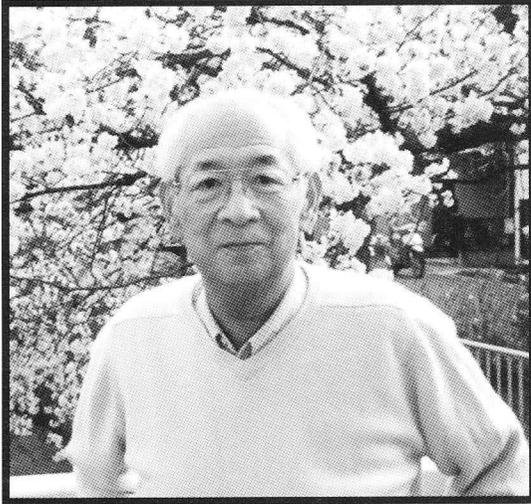


故吉川禎一先輩を追悼する

昭和30年卒 渡 辺 洋 一



吉川禎一 平成19年10月9日病没
遺族 妻 恵美子様

訃報は昨年(平成19年)12月3日、奥様により喪中の通知としてもたらされた。

一時は大病を乗り越えた病人同志で喜びあったものだ。その後、航空ショーを見に行ったり、近場の旅で美味しいものを食べ、また杯を酌み交わした楽しい思い出が昨日のようによみがえってくる。

その後、病が再発したのか再入院したと仄聞していたが、退院の通知を頂いたので一安心していた。しかし、様子を尋ねようと電話するが、ついに彼と電話口で話しをすることが叶わなかった。

先日、たまたま FM で静かなクラシックを聴いた時、涙が出てしょうがなかった。音楽に感激して引き込まれることはあるが、涙は初めてのことである。クラブで苦楽を共にした親友に先立たれるのは、こんなにも悲しいことなのか。すっかり

落ち込んでしまったと同期の藤田兄に電話したことである。

去る12月12日、政会長、窪田先輩及び私の3名で弔問に訪れた。葬儀は家族葬として近親のみで行われたとのこと。仏壇にお参りさせて頂いて、私はまた涙、位牌を拝見すると、最初の二文字が「翔空…」と名づけられているではないか。奥様に生前のことを色々とお話頂きましたが、奥様が明るくしておられたのが何よりの救いでありました。

我々51年生は先輩方に勧誘頂いた翌年、講和条約が発効して、空が我々に戻り、学生航空連盟の活動が再開されて、入学時に入部していたクラブを退部して航空部に喜び勇んで入部したのある。最初は河川敷「玉水」でのプライマリー合宿で、何回か索を引いて搭乗し、地上をかすめたフライトで大満足したものだ。現在の現役の皆さんには想像出来ないであろう。

ついで、プラセコでの高松合宿で、お寺「正大寺」にお世話になった。36年前のパイパー機による旋回練習などは楽しい思い出である。

今は亡き吉川兄には“千の風になって”あの大きな空を吹き渡って、我が航空部のために上昇気流を巻き起こして下さい。

ご冥福を祈ります。